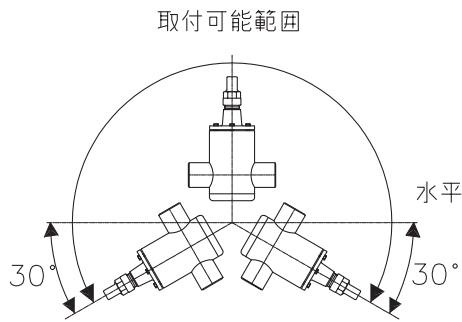


弁類の使用法

1 取付可能範囲



2 取付方法

- シールキャップを外して、スピンドルを反時計方向に止まるまで回して弁を全開にします。弁を閉じた状態で溶接すると溶接熱の影響で弁面が変形破壊するおそれがあります。
- ボディ側面の矢印と流体の流れる方向が一致するよう配管に仮付けします。
- 配管とボディの溶接部を全周にわたって本付けします。

3 弁の操作方法

- 流体を流す（弁開）
シールキャップを外して、スピンドルを反時計方向に止まるまで回して弁を開いた後に約半回転、時計方向に回して使用します。
弁開時に常時バックシートをきかせた状態で使用するとシート面が磨耗してシールが効かなくなることがあります。
- 流体を止める（弁閉）
シールキャップを外して、スピンドルを時計方向に止まるまで回した後に、規定の弁締め付けトルクにて締め付けます。
弁の開閉後は必ずシールキャップを取り付けてください。またシールキャップを外す時は内部に冷媒がたまっている可能性がありますので徐々に緩めてください。
- 弁締め付けトルク及び先端角寸法

止め弁（MGO.MAO） 単位：N・m

サイズ	トルク (N・m)	角寸法 (mm)
10A	8～ 24	□ 6.3
15A	10～ 30	□ 6.3
20A	15～ 45	□ 6.3
25A	15～ 50	□ 9.5
32A	20～ 70	□ 9.5
40A	20～ 70	□ 9.5
50A	40～ 90	□ 9.5
65A	55～170	□ 12.7
80A	100～200	□ 12.7
100A	120～360	□ 19.1
125A	120～200	□ 19.1
150A	150～300	□ 19.1
200A	250～400	□ 25.4

1N・m≒10kgf・cm

弁の開閉は上記角寸法を参照のうえ市販の工具もしくはP14の専用開閉工具を使用してください。

d グランド部の増締め

装置運転後弁取り付け部の温度が安定したら、必ずパッキン押えの増締めを行ってください。特に低温部ではパッキンの温度変化による収縮によりトルクが変化している可能性があります。

4 各ねじ部の規定締め付けトルク

Mシリーズ共通

単位：N・m

サイズ	カバーボルト	パッキン押え	バックシート	シールキャップ
10A	15	20	8～ 12	10～ 20
15A	15	20	8～ 12	10～ 20
20A	15	20	8～ 12	10～ 20
25A	30	35	10～ 15	30～ 40
32A	30	50	10～ 15	30～ 40
40A	30	50	10～ 15	30～ 40
50A	30	50	40～ 60	60～ 80
65A	30	50	60～ 80	60～ 80
80A	50	80	80～120	60～ 80
100A	120	130	80～120	80～100
125A	80	130	80～120	80～100
150A	80	150	100～150	80～100
200A	120	180	120～200	100～140

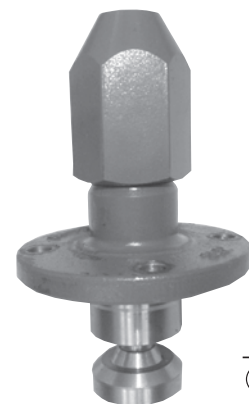
5 弁類の保守

a カバーガスケットからの漏れ

カバーの周辺から漏れている場合は、カバーガスケットからの漏れが原因です。弁を半開きの状態にして規定のトルクで対称の位置毎に交互にカバーボルトの増締めをします。増締めをしても止まらない場合はカバーガスケットを新しい物に交換してください。

b グランドパッキンからの漏れ

パッキン押え周辺から漏れている場合は、グランドパッキンからの漏れが原因です。パッキン押えを規定のトルクで増締めをします。増締めをしても止まらない場合はグランドセット又は上部一式を新しい物に交換してください。



上部一式
(ボンネット)

*カバーガスケット、グランドセット、上部一式については、P14～15を参照ください。

ab共、交換作業を行う場合は、取扱説明書に従い正しい手順で作業を行ってください。